

平成29年度 自己評価表

鳥取敬愛高等学校

<p>中長期目標 (建学の精神)</p>	<p>人格の完成、婦徳の涵養に努め、自主的精神に富める心身の健やかな国民を育成する。 「国際化・情報化社会の中で、自ら志を立て、誠意をもって、幅広く社会の発展に貢献する人間を育てる」</p>
--------------------------	---

<p>今年度の重点目標</p>	<p>(1) 学力の向上 個に応じた指導 学習支援体制の充実 (2) 国際理解教育の推進 主体的にチャレンジする心を育てる (3) 基本的な生活習慣や社会性の育成 (4) 自己肯定感・成就感の醸成</p>
-----------------	--

年度当初				評価結果(3)月			
評価項目	評価の具体項目	現状認識	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成の状況	評価	改善方策
学力の向上	個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の基礎力に差があり、その定着に努力している 生徒の学力向上のために授業の工夫がなされているが、十分に定着できていない 	<ul style="list-style-type: none"> 工夫された授業に主体的に取り組み、学力が高い 教科の基礎基本が定着しており、学習効果の高い授業により、学力を高めている 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発問や内容をたえず検証し、授業力の向上につなげていく 生徒一人ひとりの学力を見極め、個別に課題を与えていく 各教科会等で授業内容等の検証を行っていく 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科会では定期的に行われているが、授業内容等の検証とまでは至っていない。 生徒が主体的に学びに向かうよう、さらなる工夫が求められている。 ICT環境の整備計画が、次年度に持ち越された。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境をさらに充実する。 機会をとらえて、授業研究会等への参加をさらに促し、研修成果の共有化を図る。
	学習支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> e-learningの導入により個々の到達度に合わせて学びなおしが可能となり、成績下位の生徒が減少している 目標を持っていても、その実現に向けた方策や行動ができていない生徒もいる 	<ul style="list-style-type: none"> GTZ Dゾーンの生徒数を前年度比10%減らす Bゾーン以上の生徒数20%をめざす 自己を理解し、自らの将来について主体的に考える力を身につけている 	<ul style="list-style-type: none"> e-learningを導入し、学びなおしはもちろんのこと家庭での学習にも活用できよう活用推進を図る Classiでの学習時間調査や動画を活用した家庭学習、反転授業を導入し、家庭学習でのネット活用を促進する 放課後の自主学習や学習スケジュール帳をもとにした面接指導を実施し、継続した学習の大切さを自覚させる 	<ul style="list-style-type: none"> GTZ Dゾーンの生徒数は前年度比5%程度減少している。しかし、Bゾーン以上の生徒数は12~14%となっている。 家庭でのe-learningの活用、ネットを活用した家庭学習はまだまだである。 放課後の自主学習など、特進コースを中心に1年生・2年生には定着しつつあり、成果も出ている。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学習の意義、学習の仕方など、根気強く指導を継続する。 模試検討会などのより生徒個々の課題を把握し、その克服を促すべく助言などができるよう努める。
国際理解教育の推進	主体的にチャレンジする心を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 海外の高校生との交流など国際理解教育の推進にともない、多くの生徒・職員が世界を意識しつつある 個々の生徒の中には、自分の殻に閉じこもりがちなものもいる 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分なんか」「どうせ出来ない」という意識を払拭し、自分の力量に合わせて、何事にも積極的に、主体的に少しでも向上しようという意識をもっている 	<ul style="list-style-type: none"> 海外研修旅行のさらなる充実 希望者参加型の海外研修を学校主体で実施し、職員のグローバル化と生徒の海外への意識改革を図る 学校交流など海外の高校生と交流する機会を積極的に取り入れ、同年代の高校生の考え方を知り、自分の現状を見直す契機とする 海外経験者や外国人による講演会を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> タイからの訪日団を受け入れ学校交流を実施。 鳥取県-モンゴル中央県交流20周年事業により生徒5名職員1名がモンゴル中央県を訪問。 夏季休業中の海外体験ツアーなどに申し込む生徒が増えている。 2年生の海外研修旅行への参加は100%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 異文化交流等の体験が一部の生徒だけにとどまらないよう、学校全体で共有できるようにする。 研修旅行への全員参加を続けていきたい。
基本的な生活習慣や社会性の育成	基本的な生活習慣とマナーの定着	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が身だしなみに注意しルールを守った行動ができており、校内では規範的な行動ができるようになってきている 家庭環境やこれまでの習慣を理由に校外・家庭で自己管理が不十分な生徒もいる 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が確立されており、マナーやモラルを守って落ち着いて学校生活をおくっている 1日1時間以上の家庭学習が習慣化されている 	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動すべての場面(ホームルーム・授業・部活動・学校行事)においてゼロトレランス指導を推進し、全職員の目できめ細やかな指導をしていく 生徒に生活リズムの大切さを教えるとともに、将来の目標(進路)を設定させ、それに向けて自己管理に何が必要か考えさせることで生徒の変化を期待する 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な服装髪指導と、日常的に教育活動全般において身だしなみ等指導を行った。 ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手を配慮した言動がとれているが、ごく少数の生徒の中には、交通マナー等が守れず、学校へ指導の要請を求められるものもいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活のあらゆる場面で指導を継続するとともに、職員全体の意識を細かな面にも向ける。 全校集会での注意喚起やPTAの協力を得て、さらにマナー・モラルの向上を目指さず。
	豊かな人間関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> 大部分の生徒は良好な人間関係を築いているが、中には友人関係で、小さなトラブルを生じ、不安感などを感じている生徒もいる 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい自己理解と他者理解にもとづいて良好な人間関係を築き、個々人が、主体的に行動する力をもっている 	<ul style="list-style-type: none"> hyper-QU、個別面談等を通して生徒の理解に努め、生徒が安心・安全な学校生活を送れるよう促す あいさつ運動、学校行事など機会をとらえて、協力して物事に取り組む姿勢を育む 	<ul style="list-style-type: none"> 配慮を要する生徒について、丁寧な情報交換を行いながら対応することができた。 ほとんどの生徒は良好な人間関係を築くことができているが、他者理解が不十分な面が見られる生徒もいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 担任、養護教諭、SC等の連携を深め、生徒の小さな変化を見逃さないよう心懸ける。
自己肯定感・成就感の醸成	学校行事・部活動などへの積極的参加	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や学校行事に意欲的に参加する生徒が増えつつある 自己肯定感が低く自信を持っていない生徒もいる 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や委員会活動に自主的に活発な取り組みが見られ、個々の参加意欲や貢献意欲が高い 部活動が活発で、活動への意欲が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 体験的活動やボランティア活動など、さまざまな場面で生徒に達成感をもたせる 部活動が成長の場であることを伝え、加入を促進し、継続的に取り組ませる 	<ul style="list-style-type: none"> 敬愛祭での自主的な運営等、生徒会執行部を中心に学校をリードする取組が見られた。 部活動、特に運動部への加入率が停滞している。 卓球部、バドミントン部、なぎなた部がインターハイに出場した。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会などリーダーの継続的な養成を促した 部活動を継続する意義を進路指導と併せて機会をとらえて訴える。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化が見える D：まだ不十分 E：見直しが必要
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]